



マダニにご注意！

県内において、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）と考えられる症例が確認されています。この病気は多くの場合、ウィルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染します。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、ダニに咬まれないように注意してください。

マダニとは

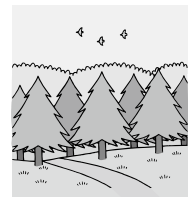


マダニは食品等に発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内に生息するダニとは種類が異なります。

マダニは、堅い外皮に覆われた比較的大型のダニ（吸血前で3～4mm）で、主に森林や草地等の野外に生息しています。

日本全国に分布し、市街地周辺にもみられます。

フタトゲチマダニ（写真：国立感染症研究所）



マダニによる感染症の症状

○重症熱性血小板減少症候群（SFTS） （咬まれてから6日～2週間後に発症）

発熱と食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状がみられます。時に頭痛、筋肉痛、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。ダニが刺した痕（刺し口）がみられます。

○日本紅班熱 （咬まれてから2日～8日後に発症）

高熱や倦怠感、頭痛、悪寒を伴い米粒大から小豆大の赤い発疹が出ますが、かゆみや痛みを伴わないのが特徴です。ダニが刺した痕（刺し口）がみられます。

感染を予防する方法

マダニに咬まれないようにすることが重要です！

農作業や庭仕事、レジャーなど野外で活動する際には、次のことに気をつけてください。

- ・ 長袖、長ズボンを着用して肌の露出を避け、すそを入れ込んでダニの付着を防ぐ。
 - ・ 肌が出る部分には、防虫スプレーを噴霧する。
 - ・ 地面に寝転んだり、腰を下ろしたりしない。
 - ・ 作業後は、体や服をはたき、ダニに刺されていないか確認する。
 - ・ 吸血中のマダニを見つけた時は、できるだけ医療機関で処置する。
- * 無理にマダニを引きはがそうとすると、ダニの一部が皮膚内に残ってしまふことがあります。



☆マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は直ちに医療機関を受診してください。

〔お問い合わせ先〕 高知県須崎福祉保健所 衛生環境課 ☎0889-42-1999